

村山鋼材

熱延レベラーがフル稼働

生産性向上など奏功

大手コイルセンターの村山鋼材(本社：千葉県浦安市、村山和雄社長)は厚板加工部門のプロパー販売増加やひも付き受託加工の受注堅調に支えられ、浦安工場(千葉県浦安市港)の熱延大型レベラーラインのフル稼働が続いている。主力機のジャンボ・カッティング・ライン1号機(JCL1)は先月、1日の加工量が1直勤務と残業対応で最高490トに達するなど、生産性が過去最高水準で推移している。

ライン改良で受注増加

JCL1は前期までにレバー切断用鋼板の品質向上を目的としたライン改良を実施。社内の提案制度で

が増すメリットもあり、厚板ミル材からの切り替えニーズも伸びているという。

一方、JCL2は近年の薄肉軽量化ニーズの高まりに伴い、ハイン材(高張力鋼板)の加工比率が上昇していることから、シャードを軟鋼から最大60ギ鋼のハイン材まで切断できる兼用刃に変更。手間のかかる交換作業がなくなったこと

で、ライン効率が大幅に改善された。

受注好調を受け、同工場では1日の出荷量が1000トを超え、トラック台数で1000台に達する日も出てきている。特に受託加工分の引き取りが集中する昼休み前後は工場周辺にトラックが列をなすことも多い。

現在は同じ浦安鉄鋼団地内の他社ヤードを一部賃借し、出荷場所

を分散することで、引き取り待ち時間の短縮を図っている。さらに追加で別の倉庫を借りることも、待ち時間の少ない午前中に入車してもらええる仕組みづくりも検討する。

両ラインで製造する主力商品のレバー切断用鋼板については、さらなる受注拡大に向け、最大製造範囲である板厚16ミ、板幅2150ミ(SS400規格品)サイズでの顧客ニーズを満たす品質の確立を進める。村山社長は「生産性と品質はトレードオフの関係とされるが、うまくバランスを取って、両立させていきたい」と話している。

村山鋼材

前期並みROS維持

15年9月期 厚板自販と倉庫健闘



村山社長

大手コイルセンターの村山鋼材(本社千葉県浦安市、村山和雄社長)の2015年9月期業績は売上高が1億9000万円、経常利益が1億5600万円となり、いずれも前期比横ばいとなった。

た。売上重量も横ばいの25万6000トンだった。売上高は2期連続で100億円の大台を確保。鋼材市況が全般的に失速する中、薄板営業部はマージン悪化などで苦戦したが、厚板加工部門と倉庫部が逆境下で健闘し、前期並みのROS(売上高経常利益率)を維持した。

厚板加工部門の売上重量は期初計画と同程度の20万7000トン。

受託加工は減少したが、プロパー材の拡販で補った。中長期的な営業部門の戦力充実化に向け、若手社員が北関東営業所に短期出張し、中堅営業マンに同行する取り組みなども展開し、人材の底上げにも注力した。

薄板営業部は神奈川営業所や西東京営業所で地場密着型の小口対応を生かし、新規顧客を20社開拓した。ただ、市況軟化のスピードが

速く、採算悪化が進行。前期後半は持ち直した

ものの、前半の損失を取り返せなかった。倉庫部は入出庫量や保管量が増加し、安定した収益源となった。一昨年に稼働を開始した太陽光発電事業は想定発電量を上回る122万キロワット時を記録し、開業2年目にして黒字化を達成している。

